

広野文芸欄

季題 当季雑詠

広野町長月句会

悟 峯

幾度も空を見上ぐる夏祭
朝顔の蔓を引きあふ蜘蛛の糸
早々の威し銃なり目をさます

遠藤健太郎

門前の子ら打つ太鼓地蔵盆
肩先に安堵の羽や秋あかね
夕がたに農具残らず寄せにけり

阿部 真生

波に乗る鷗に秋のきたりけり
新盆や迎え火をたき母を待つ
夕涼み思いめぐらす八ヶ月



塩 史子

懐かしき顔の行き交う墓参り
山霧に追われて登る月の山
人波の流れを止める花火かな

西 山子

ギター弾く指のつまづく雷雨かな
傘振りて喜雨を大地に返しけり
氷水色と光りをすくいけり

宮下 純子

門火焚く先祖は恒武平氏とか
盆近し檜風呂桶新調す
白玉に舌のよろこぶ午後三時

酒井 津祢

海霧深く塩屋岬はかくれけり
送り火は子の用意せし松割木
網張って穂ばらみの田を印しけり

俳句会 会員募集

移りゆく四季折々の自然を深く心にうけて
すぎゆく日々を文字にして詠んで見ても
如何でしょうか。

月一回二時間余りののどかな句会です。

講師先生はいわき市より若き猪狩行々子
先生。ずっと前から知っていたような人な
つこい眼差しの文学の先生です。一句一句
丁寧に読み上げて教えられております。

俳句を作ってみたい御希望の方は

「俳句会 遠藤健太郎 ☎27124412」まで

畜産農家を訪ねて

シリーズ4

広野町では、7軒の農家が、広野町和牛部会に加入して和牛繁殖経営に携わっています。日々和牛の飼育に励んでいる会員を紹介しています。

畜主名

齋藤 政吉 さん
(大字上浅見川)

畜主歴

- 昭和 63 年から飼育を始め、現在、親牛 12 頭、子牛 7 頭飼育している。

牛を飼育して良かったこと

- 近所の方が体を患い牛を眺めに来る日々がありました。ある日、子牛が寄ってきたことに感激して、今まで無表情でしたが涙を流したことに家族もびっくりしました。牛に癒されたと思い、大変嬉しかったです。
- 29 歳で飼育に関わり苦勞しながらやってきたが、牛を育てるのが励みになる。
もっと、若い人にも繁殖経営に関わってほしいと思う。

牛を飼育して大変なこと

- 子牛セリ雄牛 40 万円、雌牛 30 万円で売れば何とか(子牛セリ代で親牛飼料代となる)手間代になる。
- 牛の繁殖だけで生計を立ていくのは難しい。
- 牧草の乾燥は天候次第なので大変。



▲ 政吉さんと奥さんの美智子さん

飼育するのに工夫していること

- 常に発情をチェックして 1 年 1 産を目標にしている。
- 近くに住宅が密集しているので牛の防臭対策として、消臭剤をスプーン 1 杯餌に混ぜて飲ませたり、牛舎の消毒を定期的に行っている。
- 牛のストレスを溜めないように手作りの運動場に毎朝、全頭出して、夕方牛舎に入れている。
- ビールかすを乳酸菌で発酵させた物を購入して餌にしている。
- 牛舎の天井を高くして、中にトラクターを入れて楽に堆肥を出せるようにしている。

和牛を導入して繁殖経営に取り組んでみたい方は、役場産業グループまでご連絡下さい。

広野町役場 産業グループ ☎ 0240-27-4163